

第一問（40点満点）

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文（章）の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の抜けについては、一つごとに1点減点する。

問一

■形式上の不備

- ・文末表現は要素D参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 自己愛の強い人ほど、カント倫理学の課題である自己愛を打ち消すことの困難さと、
B そのために求められる理性の強さを
C 実感として理解できるから。
D

■採点方法…各要素単独採点

- 要素A+D 「自己愛の強い人ほど」+「実感として理解できるから」…4点
- 要素B 「カント倫理学の課題である自己愛を打ち消すことの困難さと」…2点
- 要素C 「そのために求められる理性の強さを」…2点
- 要素E 文末表現は「…から。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素D参照

基準 配点8点

- 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A

善良な市民が劣った者を悪意なく排除、軽蔑する構造の中に、自己の優越性に基づく傲慢さと

B

C

いう最も嫌悪すべき自己愛が 隠されているということ。

- 採点方法…各要素単独採点

■要素A 「善良な市民が劣った者を悪意なく排除、軽蔑する構造の中に」…3点

■要素B 「自己の優越性に基づく傲慢さという最も嫌悪すべき自己愛が」…3点

■要素C 「隠されている」…2点

■要素D…文末表現は「……こと。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素C参照

基準 配点8点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A たとえそれが自覚的なものであれ、自己愛に基づく適法的行為は、見返りなく理性に従うこと
B
C
D をその条件とする道徳的善さとは 相容れないから。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「たとえそれが自覚的なものであれ」…1点

■要素B 「自己愛に基づく適法的行為は」…2点

■要素C 「見返りなく理性に従うことをその条件とする道徳的善さとは」3点

■要素D 「相容れない」…2点

■要素E 文末表現は「……から。」という形が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素E参照

基準 配点13点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A

他のあらゆる倫理学が究極的には自己の幸福を目的とする中で、自己愛に基づく幸福追求を人

B

間存在の本性として認めつつ理性による自己愛の克服を目指すカント倫理学は、あらゆる幸

C

福を投げ捨ててただ理性に従うことを求める点で、卓越したものであるということ。(120字)

D

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「他のあらゆる倫理学が究極的には自己の幸福を目的とする中で」…3点

■要素B 「自己愛に基づく幸福追求を人間存在の本性として認めつつ理性による自己愛の克服

■要素C 「あらゆる幸福を投げ捨ててただ理性に従うことを求める点で」…3点

■要素D 「卓越したものである」…2点

■要素E…文末表現は「…こと。」が原則。不適切な文末表現と判断される場合は1点減点。

問五 漢字の書き取り 各1点×3

a 克服

b 糾弾

c 隔絶

(一) 文科ア・理科ア 傍線部を現代語訳せよ。 【3点】

〔傍線部〕 A1 件の楼に宿する人、多くはB2 存しがたし。

〔解答例〕 A1 例の高殿に宿泊する人は、多くはB2 生きながらえることができない。

〔採点方法〕 各要素単独採点。 「字数」 指定なし。

〔ポイント〕

A【1点】 件の楼に宿する人、多くは ↓ 例の高殿に宿泊する人は、多くは

※「件の」は「例の」でなくてはならない。「件の」のままや、「その・あの」等は×。

※「高殿」は「楼・到来楼」でもよい。

※「宿泊する」は「泊まる」でもよい。

※「人は、多く」は「人の多くは」でもよしとする。

B【2点】 存しがたし。 ↓ 生きながらえることができない。

※「生きる(生きながらえる・生きのびる・生存する等)」「と」、「できない(難しい・困難だ等)」「で 【2点】。

※「生きて×帰れない」「帰る」のような余計な表現がある場合はマイナス1点。

(一) 文科エ・理科ウ 傍線部を現代語訳せよ。 【3点】

〔傍線部〕

A2 大臣ことなくてあるを見て、 **B1** いよいよあやしむ。

〔解答例〕

A2 大臣が無事に生きているのを見て、 **B1** ますます不思議に思う。

〔採点方法〕

各要素単独採点。

〔字数〕

指定なし。

〔ポイント〕

A【2点】 大臣ことなくてあるを見て、 ↓ 大臣が無事に生きているのを見て、

※ 「大臣」は「吉備大臣・吉備の大臣・吉備真備・吉備・真備」等でもよしとする。

※ 「無事に」は「何事もなく・なんともなく・何の異常もなく」等でもよい。

※ 「生きている」は「ある・いる」等でもよい。

B【1点】 いよいよあやしむ。 ↓ ますます不思議に思う。

※ 「ますます」は「いよいよ」のままでもよく、「一層・さらに」等でもよい。

「だんだん・徐々に」は×。

※ 「不思議に思う」は「不審に思う・怪しむ・いぶかしむ」等でもよい。

(一) 文科力・理工工 傍線部を現代語訳せよ。 【3点】

〔傍線部〕

A1 貴下をあひ具して、

B1

かの沙汰のところへ到りて、

C1 聞かせむ。

〔解答例〕

A1 あなたを連れて、

B1

『文選』を講じている所まで行って、

C1 聞かせよう。

〔採点方法〕

各要素単独採点。

〔字数〕

指定なし。

〔ポイント〕

A 【1点】 貴下をあひ具して、 ↓ あなたを連れて、

※ 「あなた」は「貴方・貴殿」などでもよい。「貴下」のままは×。

※ 「を連れて」は「を伴って」でもよい。「連れて・伴って」の意がない」と共に・と一緒に・にお供して」等は×。

B 【1点】 かの沙汰のところへ到りて、 ↓ 『文選』を講じている所まで行って、

※ 「文選」の意、もしくは、「かの」の直訳に当たる「あの・その・例の」等の意がない場合は×。

※ 「講じている」は「担当する・扱う・研究する・講義する・協議する・学ぶ・論ずる・議論する・議論する・処理をする」等でもよい。

※ 「行って」は「向かって」等でもよい。文意が通っていれば「着いて・到達して」等でもよしとする。

C 【1点】 聞かせむ。 ↓ 聞かせよう。

※ 「聞かせたい」でもよしとする。使役の意がない「聞かう」等は×。

文科(二)・理科(二) 傍線部「…」とあるが、なぜ「の」のように言うのか、説明せよ。 【5点】

〔傍線部〕 最もうれしきことなり。

〔解答例〕 **A2** 安倍氏の存続や **B2** 子孫が官位についているかどうかを **C1** 聞けると思ったから。

〔採点方法〕 各要素単独採点。(AとBには条件あり) 〔字数〕 指定なし。

〔ポイント〕

A【2点】 安倍氏の存続や

※Cが×の場合は得点できない(ただし、誤字等で0点になっている場合は無得点できる)。

※Cの「聞く・知る」の対象がとして「安倍氏」があれば【1点】。

※右の意がある上で「存続・まだいる」の意があれば【2点】。

B【2点】 子孫が官位についているかどうかを

※Cが×の場合は得点できない(ただし、誤字等で0点になっている場合は無得点できる)。

※Cの「聞く・知る」の対象がとして「子孫」があれば【1点】。

※右の意がある上で「官位(位・役職等)」についている「の意があれば【2点】。

C【1点】 聞けると思ったから。

※「話が聞けるから・話ができるから・話があったから」等、または「知ることができから・分かるから・知りたかったから・気がかりだったから」等の意があればよい。

文科(五)・理科(三) 傍線部「…」とあるが、博士は何のために楼に来たのか、説明せよ。 【6点】

〔傍線部〕 その後博士一人、楼に来たりて

〔解答例〕 **A2** 吉備の大臣が **B2** 『文選』を読むことができないのを見て、 **C2** 馬鹿にするため。

〔採点方法〕 各要素単独採点。(Aには条件あり) 〔字数〕 指定なし。

〔ポイント〕

A【2点】 吉備の大臣が

※**BもCも×の場合は得点できない(ただし、誤字等で0点になっている場合は無得点できる)。**

※「吉備の大臣」は「吉備大臣・大臣・吉備真備・吉備・真備」等でもよい。

※**B**の「『文選』を読めない」の主体、もしくは、**C**の「馬鹿にする・笑う」の対象として「吉備の大臣」が書かれていればよい。

B【2点】 『文選』を読むことができないのを見て、

※「『文選』を読めないのを見る・『文選』を読ませて誤りを指摘する」の意があればよい。

※「読ませて・読めない」等の意はあるが「文選」が明らかになっていない場合は【マイナス1点】。

※「『文選』を読ませて」はあるが、「読めない・誤り」の意がない場合は【マイナス1点】。

※「書物を読ませる」の意がない「難題を出すため」等は×。

C【2点】 馬鹿にするため。

※「馬鹿にする・笑う・笑いものにする・はずかしめる・恥をかかせる」等の意があればよい。

(一)

c. a 無事な b 知らせ (2点)

a 「吉」の意味……1点

※「無事な」「よい」「幸いな」「嬉しい」「私たちが無事という」など○

※「吉(報)」など、「吉」のままは×

「優れている」「立派な」「めでたい」などは「吉」の字義としてはアリではあるが、文脈に当てはまらないので×

b 「音」の意味……1点

※「知らせ」「消息」「報告」など○

※「話」「ことば」でも○とする

※「手紙」は文脈に当てはまらないので×とする

d. 私とお前の母とは (2点)

※「私とお前の母とは」「私とあなたの母とは」「私とお母さん(と)は」「私たち夫婦は」「お父さんとお母さんとは」など○

※「汝の母」が「おまえ(=娘)の母」であるとうけとれないもの(例:「私と母は」)は△-1点

※「AとBと」の形に訳していなくても(例:「私たち夫婦は」)よい

※「～は」が文末にないものは△-1点

※「私はお前の母とともに」は○とするが、「～とともに暮らし」のように余計な表現があるものは△-1点

e. a 年を経て b ますます (2点)

a. 「歳久しくして」の訳……1点

※「年を経て」「年月が経って」「長い年月が経って」など○

※「年をとって」は×

b. 愈（いよいよ）の訳……1点

※「ますます」「いっそう」「いちだんと」「～につれて」など○

※「いよいよ」のままでも○とする

(二) 6点

a 長女から毎月必ず手紙が来るので、b 里帰りしているのと同じだc ということ。

a. 「家書虚しき月無ければ」の要素……4点

※「長女（娘）からの手紙」の要素……2点

「長女からの手紙」「娘からの便り」「実家への手紙」など○

「家からの手紙」「家族からの手紙」「手紙」は△-1点

「実家からの手紙」「家からの文」は×

※「毎月必ず来る」の要素……2点

「毎月必ず来る（届く）」「毎月のようにくる」「毎月送られてくる」「来ない月はない」など○

「しょっちゅう届く」「やりとりが多い」など△-1点

※「～ので（から）」でbへ繋いでいることが必要であるが、一文全体の流れによって判断。aがbのようである理由のように言えていないものは×

「来ない月はなく、」は○

「手紙がくると」「手紙が来れば」「こない月がなければ」「手紙がない月がないなら」は×-2点

b. 「豈に常に帰寧するに異ならん」の要素……2点

※「里帰りしているのと同じだ」「いつも里帰りしているみたいなものだ」「帰省しているのと同じである」「里帰りしているのと変わらない」「いつもそばにいるように思われる」「様子が目に見えるように思われる」など○

※「ずっと家にいるのと同じだ」は△-1点

※「里帰りの必要はない」は×

c. 文末の「～ということ」の有無は不問とする

(四) 理科は (三) 8点

a 長女に、b 自分たち老夫婦は、c まずまず元気で、d 質素ではあるが、e 不自由なく、f 田舎の自然を楽しみながら暮らしているから g 心配するなど h ということ。

a. 「誰に」の条件……2点

※「長女に」「伯娘に」で○

※「娘に」は△-1点

b. c,d,e,fの主体の補い……1点

※「自分たち老夫婦は」「自分たちは」「父母(両親)は」など○「自分は」も可

※主体ではなく、「政界引退後は(も)」のようにしてあっても可とする

c. 「湯熨幸ひに小しく停む」の要素……1点

※「まずまず元気で」「元気で」「無事で」「体調も良くなって」など○

d. 「膏粱は晩食を以ってし、安歩にして車へいなり」の要素……1点

※「質素な生活をしていることに触れていれば良い

e. 丘園一品に禄し、吏卒使令に給す」の要素……1点

※生活には不自由していないことに触れていればよい

※「お上から十分なものはいただいております」などでもよい

f. 「山奥…」(23句)～「??…」(32句)までの要素……1点

※田舎で、自然豊かな生活を楽しんでいることに触れていればよい

g. 自分たちはc~fのようにしているから「心配するな」ということ……1点

※長女に対して言いたいのは「心配するな」ということである。これは、毎月必ず手紙をよこし、「憂へ」て、「涕（なみだ）の零（お）つる」ことを手紙に書いてきたりする長女への返事であることから、まとめとして言いたいところである。

h. 文末の「~ということ」の有無は不問とする